

営農情報（大豆）

令和5年7月19日

（大豆の遅播き対策）

J A福岡大城、南筑後・久留米普及指導センター

今年は播種適期に入っているにもかかわらず、記録的な豪雨に見舞われ、7月中旬になっても雨天が続いていることから、播種が適期を過ぎることが予想されます。

そこで、以下の対策を行って下さい。

- 1 できるだけ早く播けるよう、暗渠のフタをはずし、周囲溝の設置や排水口の整備等を行い、ほ場の乾きを促進します。
- 2 播種可能な土壌条件になるまでに、可能な範囲で土壌改良資材の散布や耕起前の除草を済ませておきます。
- 3 播種量や株間を調整するとともに、基肥に窒素を含む肥料を加えて、生育量を確保します。

（1）播種

播種期	7月5日 ～20日 (適期播)	7月21日～ (遅播)	8月1日～ (遅播)
株間(2粒/株)	30～20cm	20～15cm	15～10cm
10a当り播種量	3～5kg	5～7kg	7～9kg

播種深度は3cm程度の深さを基本とし、土壌の水分状態に応じて調整します。
梅雨明け後、晴天が続く場合はやや深め(5～6cm程度)とします。

（2）基肥

遅播きでは、大豆の生育量が不足しますので、生育量確保のためにちくごのめぐみ444を15kg/10aを施用します。